

第 15 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年12月 7 日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 15 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年12月7日(木曜日)

午前10時0分開議

午前10時46分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通する事項
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(14人)

委員長 池田和貴
副委員長 高野洋介
委員 氷室雄一郎
委員 藤川隆夫
委員 松田三郎
委員 溝口幸治
委員 西 聖一
委員 渕上陽一
委員 橋口海平
委員 楠本千秋
委員 岩田智子
委員 高島和男
委員 大平雄一
委員 吉田孝平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 奥 菌 惣 幸
政策審議監兼

商工政策課長 中 川 誠

観光経済交流局長 原 山 明 博

観光物産課長 永 友 義 孝

国際課長 小金丸 健

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

首席審議員兼国際

スポーツ大会推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 山 本 國 雄

教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西 村 浩 二

総務部

首席審議員兼人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 齊 藤 浩 幸

地域振興課審議員

兼課長補佐 鈴 和 幸

文化企画・世界遺産

推進課長 手 島 伸 介

健康福祉部

障がい者支援課長 奥 山 晃 正

土木部

道路都市局長 宮 部 静 夫

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 森 本 信 明

交通規制課長 瀬 河 清 信

事務局職員出席者

政務調査課主幹 福 島 哲 也

政務調査課主幹 佐 藤 誠

午前10時0分開議

○池田和貴委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第15回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催いたします。

それでは、審議に入らせていただきたいと思います

思います。

お手元に配付をしております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

なお、委員会の運営は効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いをしたいと思います。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 おはようございます。国際スポーツ大会推進課長の水谷でございます。

失礼して、座って説明させていただきます。

まず、資料の確認をさせていただきます。

本日、資料は、A4横のページ上に、第15回特別委員会資料と記載しているホッチキスでとじてあるものが1部と、A4縦の青いラグビーワールドカップのチラシの1枚です。ございますでしょうか。

では、ホッチキスどめの資料に沿って、4つの付託案件を順に説明させていただきます。

では、開いていただいて1ページをお願いします。

最初に、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件です。

1ページは、大会概要です。大会期間は、2019年11月30日（土曜日）から、12月15日（日曜日）までで、2年後の今はちょうど大会の期間中となります。

試合会場はパークドーム熊本、アクアドームくまもと、八代市、山鹿市の総合体育館で、24カ国参加のもと開催される予定で、準備をしておりましたが、前回の委員会で御説明しましたとおり、ことし3月のIHF国際ハンドボール連盟の視察において、試合会場などについて指摘がっております。

2ページをお願いいたします。

そのIHFの指摘と、対応状況について記

載しております。

主な指摘事項としては、山鹿会場の競技会場の観客席数と、八代及び山鹿会場における宿泊施設についてです。

これまでの協議における、前回からの進捗状況について御説明します。

下の(3)の②のところですが、八代会場の宿泊施設については、指摘のあった施設の改修についてホテル側の御了承をいただき、具体的な改修内容についてホテル側と協議を進めております。

また③ですが、今回の視察については来年2月に実施されることとなりました。また、それに向けた事前の協議を、現在ドイツで行われている女子の世界選手権の視察中に行うこととなりました。

3ページをお願いします。

現在行われている熊本大会の前の大会となる、ドイツ大会の概要です。

12月1日から17日、24カ国参加のもとドイツ国内6会場で開催されています。

会場は表のとおりですが、準決勝、決勝が行われる1万3,000人収容のハンブルグ会場を初め、いずれも4,000人を超える会場となっています。

(2)は、大会の入場チケットの種類と価格帯です。

試合の様子は、インターネットを通じてほぼ見ることができます。

日本も頑張っておりますが、現在、戦績は1勝2敗1分ですが、初戦のブラジル戦に引き分け、第3戦でモンテネグロに1点差で勝利しました。

けさ未明のロシア戦、リオオリンピック金メダルのチームですが、これは29対28と、惜しくも1点差で負けております。

2年後を見据えたチームの強化のためにも、残るチュニジア戦に勝って、グループ4位以上が進む決勝トーナメントにぜひ進出してもらいたいと思っております。

4ページをお願いします。

①ですけれども、今回の大会は熊本の前の最後の女子の世界選手権大会となりますので、大会運営全般について視察・調査を行っております。視察団も、事務局はもとより八代市、山鹿市、また、競技運営を担う県ハンドボール協会会員からも構成されておりまして、今回は議長、正副委員長にも御参加していただきます。

②ですけれども、視察とあわせてPR活動も行っております。大会のプログラムに熊本大会の記事を掲載するほか、日本チームの予選会場のオルデンプルク、決勝、準決勝が行われるハンブルグには、PRブースも設置いたします。

また、大会の様子は熊本のテレビ局に委託し、年末に特別番組として放送するほか、その取材映像は他局にも提供していただきまして、各局からのニュース映像として活用していただくこととしております。

③ですけれども、今回、閉会式では熊本大会への引継式が行われます。ドイツハンドボール協会からIHFの会長を経由して、IHF旗が日本ハンドボール協会へ引き継がれます。と同時に、小野副知事、熊本市長から熊本大会のPRを行っていただく予定です。

5ページをお願いいたします。

キャッチフレーズ募集についてです。大会開催の機運醸成を図るため、大会のPRに広く使用するキャッチフレーズを募集したところ、3,394点の応募がありました。

県の地域プロジェクトアドバイザーである小山薫堂さんを委員長とした選定後、現在、商標調査を経てドイツ大会の閉会セレモニーでお披露目を行う準備を行っているところです。また、このお披露目と同時に、国内でも発表したいと考えております。

次は、5、PR活動についてです。

5ページから6ページにかけて、県内で催されたさまざまなイベントを通じて、大

会の告知やハンドボールの普及を図っております。

また、6ページの下の方の左下の写真のように、さまざまな企業や団体の御協力をいただきまして、街中への装飾を行い、機運の醸成を図っております。

7ページをお願いいたします。

熊本のハンドボールの歴史巡回パネル展についてです。

なぜ熊本で男女2度の世界選手権大会が開催されるのか、県民の皆様には理解していただけるように、熊本におけるハンドボールの歴史をパネル展に仕立て、県内を巡回することとしております。

2年後の開幕日となる11月30日には、日本ハンドボール協会長や岩下議長にも御参加いただき、オープニングのセレモニーを行いました。

今後、阿蘇くまもと空港や各大会会場、商業施設などを巡回展示することとしておりますけれども、来週の月曜日までは県庁新館1階で展示しておりますので、お時間があれば委員の皆様もごらんいただければと思います。

8ページをお願いします。

同じく11月30日、大会のホームページを開設しました。大会の情報のみではなく、大会公式キャラクターくまモンによるハンドボール観戦講座やクイズなど、楽しくハンドボールに親しんでいただける内容となっております。こちらも、ぜひごらんいただければと思います。

8は、日本ハンドボール協会の新体制についてです。10月末、新しい理事の互選により、新役員が決定しました。会長には、広島にある湧永製薬の湧永寛仁氏が新たに着任され、先月末、福地副会長とともに知事を表敬訪問されました。

知事からは、全国のハンドボール関係者を通じて、世界選手権に向けた国内の機運を盛

り上げること、また、日本代表チームの強化について要請されました。

9ページは、今後の主なスケジュールです。

年が明けると、県内3カ所で日本ハンドボールリーグが行われます。地元オムロンが登場しますので、多くの皆様に会場に応援に来ていただきたいと思います。

IHF国際ハンドボール連盟の現地調査は、2月16日から20日の5日間の予定で行われます。この視察を経て、年度内には大会の実施計画を策定することとしております。

現在、日本協会とも相談しておりますが、大会1年前に当たる時期にプレ大会として国際大会を開催できればと考えております。それらを踏まえ、2019年の本大会へ開催地の準備を行っていくこととなります。

10ページをお願いいたします。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件です。

11月2日、2年後ワールドカップの決勝が行われるこの日に、大会の全日程が発表されました。全日程は、もう1枚のお手元の青いチラシの裏に記載のとおりです。

熊本では、10ページにありますように、10月6日（日曜日）、16時45分から、県民総合運動公園陸上競技場でフランス対トンガ、10月13日（日曜日）、17時15分から、同じ会場でウェールズ対アメリカ地区第2代表の2試合が行われることとなりました。

アメリカ地区第2代表は、カナダとウルグアイが争っており、来年2月には決定することとなっております。

熊本では2試合と、開催12会場の中では札幌市、岩手県釜石市とともに一番少ない試合数となっておりますけれども、フランス、ウェールズという伝統ある強豪チームの好ゲームが組まれたと考えております。また、2試合とも観戦しやすい日曜日に組まれており、2のキャッチフレーズにあるとおり、熊本で

の観戦は一生に一度となると思われまして、ぜひ多くの県民の皆様に御観戦いただきたいと思います。

11ページをお願いします。

試合日程に合わせて、チケット販売の概要も発表されました。日本大会は、アジアで初めて開催され、アジアでのラグビーの普及を図るため、より多くの方にスタジアムで観戦していただけるような価格設定がなされております。

熊本の会場では、2試合ともメインスタンド、バックスタンドの中央部分、赤い部分ですけれども、カテゴリーAは1万5,000円、その両横の青い部分カテゴリーBは1万円、その隣の黄色い部分は6,000円、子ども2,000円、ゴールポスト裏になるカテゴリーD、緑の部分は3,000円、子どもは1,000円です。

また、販売のスケジュールは、下のとおりですけれども、早いものでは来年1月19日からスタジアムパック、熊本でいいますと、2試合合わせてのパックやチームパック、それぞれのチームの全ての試合をごらんいただけるパック、そういうセット券の抽選販売が始まります。

その後も開催都市住民先行販売など、段階的に販売が進められていきます。ただ、チケット購入に当たっては、チケットID登録がまず必要になります。お配りしているチラシの表面にも記載されておりますけれども、ID登録しないとチケットの購入はできません。このことについては、ほかの開催都市からも、ネット登録以外の購入方法は設定しないのかという声が上がっております。組織委員会は、検討しており、何かしらの実施は必要と考えているけれども、現時点での具体策はないという回答でございます。ことしの国際テストマッチのチケットの販売状況などを踏まえ、引き続き要請してまいりたいと考えております。

12ページをお願いいたします。

会場整備についてです。

現在、大会後もその整備効果が残る、本設工事について着手しております。既に整備したスタジアムの17メートルポールについては、先日のトップリーグでも活用されており、キックのイン・アウトが見やすくて、わかりやすいとの声も聞かれました。今後、更衣室、照明、座席、トイレ、2面目のビジョンなどについて、順次整備を進めてまいります。

13ページをお願いします。

PR活動についてです。

ワールドカップ2年前イベントの一環として、さまざまなPRを行いました。

10月9日には、ワールドカップの優勝トロフィーが熊本市のデパートにやってきました。当日は藤崎宮の例大祭とも重なり多くの人出があり、本物ということがたくさんの方が、一緒に写真を撮ったりされていました。

また、ハンドボール同様、壁面装飾を行うとともに、試合日程の決定の模様や日本対オーストラリアのテストマッチのパブリックビューイングを行い、ワールドカップに向けた機運の醸成を図りました。

14ページをお願いします。

③では、テストマッチで来日していたオーストラリア代表などが大使館に訪れ、そのレセプションにくまモンも出席し、開催地熊本をアピールしました。

④は、ロンドンで行われた公式旅行代理店向けのワークショップの模様です。同じ九州の開催地、福岡県、大分県とともに参加しました。

本県からは国際課が対応し、旅行代理店に本県の観光情報を提供するとともに、熊本で試合を行うフランスやイギリスの旅行会社とも接触できたとのことでした。

九州では全部で10試合、わかっているだけでも12チームがやってきます。九州3県では、試合日程決定後、早速、それぞれの観光

セクションを含めた合同会議を実施し、連携して誘客活動を行っていくことなどを確認したところです。

15ページをお願いします。

⑤は、先週末行ったラグビートークショーの模様です。

第1回、第2回のワールドカップに出場した林氏や、元プレーヤーで組織委員会の松瀬広報戦略長をお迎えし、スポーツとしてのラグビーの魅力や熊本での2試合の位置づけなど、わかりやすく解説され、会場は大いに盛り上がりました。

⑥は、先週末行われたラグビービトップリーグについてです。

昨年優勝し、荒尾高校出身の日本代表流選手も所属するサントリーの試合が組まれたけれども、観客は3,000人から4,000人と低調でした。ただ、熱心なファンは多く、多くの方がワールドカップのチケットID登録をされていきました。

16ページをお願いします。

6、チームキャンプについてです。

試合日程も決まり、12月から各チームの公認チームキャンプに向けた視察が行われ、来年春以降、順次決定されていく予定となっています。

本県は、公認キャンプ地に応募しており、この秋には組織委員会から候補地の公表が行われる予定でしたが、公表は行わないとの連絡がありました。ただ、公認キャンプ実施に向け、組織委員会と連携して準備を行っております。チームの視察に当たっては、しっかり対応してまいりたいと思います。

7は、地域交流計画についてです。

国では、ラグビーワールドカップの開催を契機に、各開催都市と参加国との間の交流活性化を図ることとされています。

東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウンと同様の取り組みですけれども、交流計画が国の承認を受ければ、地域交

流や公認キャンプでの経費に財政支援が受けられることとなっております。現在、熊本で試合を行う国・地域を対象に、交流計画の提出を準備しております。

17ページをお願いします。

復興支援についてです。

6月に熊本で行われた国際テストマッチでは、通常の価格に500円を上乗せした熊本地震復興応援チケットが販売されました。この応援分に、日本ラグビー・フットボール協会からの支援金を合わせて200万円が、本県の熊本城・阿蘇神社等被災文化財復興支援募金に寄附されました。

写真は、11月に4万人を超える観衆の中で行われたオーストラリア戦での贈呈式の模様です。

18ページをお願いします。

最後に、9、今後の主なスケジュールについてです。

年が明けるとチケットの販売が順次始まりますけれども、3月の開催都市住民先行販売や、4月からのボランティア募集にあわせて、街中や空港、駅などでシティードレッシング、街中装飾を行うこととしています。

また、同じく4月からは、組織委員会の出先機関、開催都市組織委員会LOCが設置され、一緒に業務を行っていくこととしています。

また、4月28日、大型連休の初日になりますけれども、オールブラックスジュニアであるニュージーランド学生代表と九州選抜の試合の開催を、県ラグビー協会と準備を進めています。来年4月には、大会前500日を迎えます。工夫を凝らしながら機運を醸成し、試合の観戦につなげてまいりたいと思います。

次は、Ⅲ、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件です。

19ページは、大会の概要ですので省略いたします。

20ページをお願いいたします。

(1) キャンプ地誘致についてです。

インドネシアのバドミントンチームの誘致については、10月末から11月初旬にかけて、インドネシア協会の役員、コーチ、選手が熊本にやって来ました。

再春館製菓所の体育館サクラリーナをお借りし、再春館製菓所や県内の高校生などとの交流戦や、練習会場や宿泊施設の視察が行われました。

21ページをお願いします。

11月3日には、インドネシア協会長も来熊され、県協会、県の3者で事前キャンプを熊本で行うことを目指した覚書を締結しました。キャンプ実施に向け、また一歩前進できたのではないかと考えています。

②は、全日本女子レスリングチームの合宿についてです。

この合宿は、リオオリンピックの前の合宿に始まり、3回目となりました。練習環境や食事、宿泊施設について高い評価を得ており、その後の成果も上がっていることから、続いておりますけれども、コーチからは他の地域からも誘致を受けているという声も聞かれました。

22ページをお願いします。

③は、ドイツ水泳の競泳チームについてです。

10月、大西市長がドイツを訪問された際、東京オリンピックの直前合宿を行うことが決定しました。

米印のところになりますけれども、ドイツ代表チームの熊本合宿は、2008年の北京オリンピック以来となります。

また、今回の協定では、来年のワールドカップ、東京オリンピックの翌年の世界選手権においても合宿を行うことが合意されたとのことです。会場は、アクアドームくまもとです。

ことしのラグビーテストマッチでは、ルーマニアチームがアクアドームでクールダウン

を行いましたけれども、水の透明度の高さに感激していたというふうに聞きました。このような環境も、熊本の大きなアピールポイントになるのではないかと考えております。

④は、パラリンピック競技の事前合宿についてです。

来年の平昌パラリンピックに、パラアイスホッケー日本代表が出場しますけれども、同じくアクアドームで事前合宿を行うことが決定しています。

パラアイスホッケーはアイススレッジと呼ばれ、下半身に障害がある方々のアイスホッケーです。

映像を見てみますと、アイスホッケー同様激しく、スピード感あふれる競技です。練習は、一般公開も予定されております。パラリンピック競技の普及もあわせ、多くの方に応援に来ていただければと思います。

23ページをお願いいたします。

こちらは、残念な知らせが届きました。

⑤ノルウェー（ボート、カヌー）チームについてです。昨年10月、菊池市の竜門ダムの斑蛇口湖においてノルウェー（ボート、カヌー）チームが事前キャンプを行うことについて、基本合意書を締結し準備を進めてきましたけれども、先月NOCノルウェーオリンピック委員会から、熊本での事前キャンプの実施を解除する旨の連絡がありました。

JOC日本オリンピック委員会などを通じ、事実確認を行いましたけれども、ノルウェー側からは、①新しいスポーツディレクターが就任し、②東京オリンピックへの事前準備を見直した結果、事前キャンプは行わず、直接東京に入ることに方針変更した。③熊本県や菊池市の受け入れ態勢が原因ではない、とのことでした。

このことについては菊池市とも協議いたしました。残念だけれどもやむを得ないとの結論に至りました。ただ、基本合意書を締結していることから、NOCに対しては解除理

由を公文書で回答するよう要請しているところです。

(2)は、選手育成に関することですが、前回の委員会から大きな変更はないため、説明は省略させていただきます。

飛んでいただいて、27ページをお願いいたします。

その他ですけれども、東京オリンピック・パラリンピックの全国的な機運醸成を目的に、全道府県の首長やゆるキャラによるラジオ体操動画が公開されています。

県内の世界遺産などの観光スポットを背景にした本県の蒲島知事とくまモンのラジオ体操動画も、10月末から東京都の公式動画チャンネルで公開中です。

なお、東京都からは、復興オリンピックとして熊本にさまざまな御支援をいただいております。

その1つとして、来年行われる平昌オリンピック・パラリンピックにおいては、そのライブサイト、パブリックビューイングを熊本で実施したいとお話もいただいているところです。

28ページをお願いします。

聖火リレーについてです。

本定例会の一般質問でも取り上げられましたけれども、各都道府県における東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレー実施に向け、組織委員会と全国知事会において協議が進められております。

来年4月以降、各都道府県に実行委員会を設置し、ルート選定やランナー募集を行うこととなっています。

オリンピックの聖火リレーのイメージは、資料の図のとおりですけれども、前回の東京オリンピックとは違って、ランナーだけが聖火をつなぐのではなく、途中、車での移動や実施日の最終到着地では聖火を迎えるイベントを行うことなどが想定されています。

聖火リレーに関しては、厳しい情報管理の

中、準備を進めていくこととなりますけれども、多くの県民の方が楽しんでいただけるよう、また熊本地震から復興する姿や感謝の気持ちを世界中に発信できるよう取り組んでまいります。

29ページをお願いします。

最後に、IV、共通する事項です。

まず1ですけれども、小野副知事を本部長とする庁内の海外展開推進本部に、国際スポーツ部会を設置しました。

ラグビーワールドカップの試合日程も決まり、女子ハンドボール世界選手権もあと2年となり、ドイツ大会が終われば、いよいよ次は熊本開催となることから、さらなるインバウンド対策を効果的に進めることとし、第1回の部会を開催したところです。

また、県と熊本市の連携をさらに深めて対応していくための、観光会議も開催いたしました。

続く2は、熊本国際スポーツ実行委員会についてです。昨年11月、熊本で行われる国際スポーツ大会や東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致などをオール熊本で盛り上げ、レガシーを構築していくことを目的に、県内300を超える県内のさまざまな団体の賛同を得て設立いたしました。

これまでメンバーの皆様には、競技運営やチームの宿泊・移動、広報PR、テストマッチでのチケットの購入・観戦など、さまざまな御協力をいただいております。

この実行委員会の皆様に、女子ハンドボール世界選手権やラグビーワールドカップの準備状況をお知らせし、さらなる御支援と御協力を得るため、先週末にパークドーム熊本で実行委員会を開催いたしました。

当日は、日曜日にもかかわらず、委員の皆様を含め130人ほどがお集まりいただきました。また終了後は、県ラグビー協会の協力により、隣のえがお健康スタジアムで行われたラグビートップリーグを観戦していただきま

した。

30ページをお願いします。

ふるさと納税です。ことし8月、熊本で行われたオール早慶野球大会の収益金の一部を、ふるさと納税、熊本国際スポーツ大会応援分として、寄附をいただきました。

このように、さまざまな形で御支援をいただきながら、国際スポーツ大会の準備を進めております。

最後に、31ページは、これまで説明しました国際スポーツ大会に関するスケジュールの一覧になります。趣旨説明は、省略させていただきます。

長くなりましたけれども、説明は以上です。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○池田和貴委員長 以上で執行部からの説明を終わりましたので、質疑に入ります。

まず、I、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かございませんでしょうか。ありませんか。

○松田三郎委員 ハンドボールですね。

簡単な質問ですけれども、説明がありました資料8ページの日本のハンドボール協会の新体制、報道での範囲ではありますが、この前ちょっといろいろ内部でのごたごたがあったというような報道が再々ありましたけど、新体制が決まって、その間あるいはその後、我々の熊本開催に関して何か影響があったとかなかったとか、なかったらそれでいいわけですけど、ありましたら、教えてください。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ちょうど夏の間いろいろ、今、委員がおっしゃったようなことがあったわけなんですけれども、この間も事務局としては、国際連盟とのやり取りとか直接やっております、特に大きな影響はございませんでした。

また、夏には、プレ大会も開催しましたけれども、それも日本協会と共催で実施しましたので、特に大きな影響とかはありません。

また、今回就任された湧永会長、44歳とすごく若いんですけども、すごく前向きに、一緒に取り組んでまいりましょうということでは言われておりますので、また連携して取り組んでまいりたいと思っております。

○松田三郎委員 はい、いいです。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

○氷室雄一郎委員 ハンドボールの分ですけども、2ページの八代の場合は、ホテルの改修ということですけど、山鹿市の場合は、ホテルの改修等は、何も指摘はなかったのか。あと、高速道路を使うルートにより移動時間に関する問題を解決、ちょっとその辺を説明してもらって。これで、もう了解が取れるのか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 山鹿の会場につきましては、ホテル施設そのものについての御指摘はありませんでした。けれども会場までちょっと距離があるものですから、移動距離ですね、あと時間が改善を、ということで指摘されまして、今回、高速道路を活用した移動ルートとか、いろいろ検討しておりまして、実際、試走しまして、それをビデオに撮って見ていただいたりとかしております。

来年2月の視察のときに、実際、また見ていただいて、御了解を得たいと考えております。

○氷室雄一郎委員 山鹿市のホテルの利用なんかはないと考えられる。高速道路を使ってということは、泊まらない。そのルートだけ時間の件で問題が指摘をされたわけ。これは

もう解決して、了解の方向に進むんですね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 解決の方向に進むと考えております。

○池田和貴委員長 宿泊ホテルは、どこでしたっけ。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 南関町にあるホテルセキアを前回は視察していただいて、そこから山鹿市までがちょっと時間がかかったものですから、そのときはそういう指摘がありました。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

○池田和貴委員長 ちょっと1点、私のほうからよかですか。

大会ホームページが開設をされたということなんですが、これは日本語だけですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 11月30日は日本語でスタートしましたけれども、年内に英語版もつくるようにしております。

○池田和貴委員長 英語版、英語だけ。ほかの外国語は。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 今のところは英語だけです。

○池田和貴委員長 英語だけね、はい。本当に英語だけでいいのかどうか、やっぱ、ここは議論が必要なんじゃないかなというふうに思うんです。それでよければいいんですけど、やっぱネットだとどこの国からでも見れるし、ほかにもそういうツールは用意されているなら別ですけども、そこもぜひ検討をまた皆さんで話し合っていたきたいという

ふうに思います。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。
ないようですので、次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑ございませんでしょうか。

○橋口海平委員 試合日程が決まった後に、新聞報道で熊本は惨敗だというような報道があつて非常に残念だと、私は思うんですが、その後に、あんまり失敗じゃないんだというような、なかなか打ち消すことができずに、周りからも結構、「あー、いい試合が来ないんだね」みたいなことを結構言われることが多くて、やっぱりそれを打ち消していくような何か、取り組みじゃないけど、何か発信というのをしていかないといけないと思うんですが、そのところはどのように今から考えていくのか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 説明の中でも少し触れましたけれども、2試合ですけれども、熊本の試合は、フランスとかウェールズとか伝統ある強豪国との試合が組まれたと思っております。また、2試合とも日曜日の開催ということで。

それで、よそと比べてということじゃないんですけれども、平日の開催だったりとか、そういったところもありますので、必ずしも、試合数としては少ないですけれども、一番少ない部類に入りますけれども、いい試合が組まれたというふうに考えておりますので、そういったことを地道にといいますか、伝えていきたいというふうに考えております。

○橋口海平委員 地道をお願いします。

それで、試合の位置づけだったり、先ほどちょっと話があったチームが、例えば、フランスがワールドカップで準優勝を3回したと

か、トンガのウォー・クライとか、そういうウェールズの伝統的だとか、今回は、特に、多分、トンガ、ウェールズ、カナダになるのかなと思っているんですけど、メインカラーが赤だから熊本の赤とかそういうのとかもいろいろ考えていってください。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

ちょっと済みません。説明させていただきますと、フランス対トンガというのが2011年ニュージーランド大会だったと思えますけれども、フランスはすごく強いチームで、トンガはそうでもないんですけれども、その試合ではトンガは勝ったんですね。前回のイングランド大会で日本が南アフリカに勝ったような、そういうような位置づけをされた試合です。ですので、まあ因縁の対決と言われていきます。

また、フランスが所属するリーグは、イングランドとかアルゼンチンも入っていて、すごく決勝トーナメントに上がるのが非常に難しいと言われるところです。ですので、フランスは、トンガと戦った後にイングランドと戦うということで、負けられない試合ですね。そういうことで、非常に見応えがある試合じゃないかと思っております。

また、トンガは、試合の前に、ニュージーランドのオールブラックスがよくやります、ハカと言われる、試合の前に気合を入れる、何といいますか、儀式みたいなやつですね。それをやりますので、それを生で見れるというのも非常に見応えがあるところじゃないかなというふうに見ております。そういったことを伝えていきたいと思っております。

○溝口幸治委員 済みません、関連してですけど、今、橋口先生がおっしゃったのは、その惨敗だったという報道されたことが残念だったということなので、そういう意味だった

ですよ。結果的にはこの2試合なんですけど、この間、我々議会も池田委員長を中心にチケットを頑張って売ったり、ラグビーフットボール協会の方々も一生懸命やったり、執行部は執行部で一生懸命働きかけてきて、最終的に2試合だったと。これは相手が決めることです。私に言わせれば、やっぱり最大は、立地条件なのかなというふうに思います。取り組み自体は、本当に一生懸命やってきた結果なので、これは粛々と受け入れて、もうこの2試合、今、橋口先生がおっしゃったように、いいカードなんだよというイメージをどんどん膨らませていくことが大事だと思います。

加えて、ずっとこのラグビーの誘致のときから議論してきたのは、経済波及効果がずっと言われてますよね。今回の日本大会も2,330億円ぐらいあるという報道がなされたり、外国人の方は、1人17万円ぐらい使うんじゃないかという統計、新聞記事なんかが出たりということがあったので、むしろこれからはそっちのほうの対策をしっかりやっていくべきだというふうに思います。

そこで、今、この資料を見ても、これから海外からたくさん来ていただく、あるいは国内からもこのカードを見に来ていただくという取り組みというものが、もう一つ、もう1項目、この資料の中に加える必要があるのかなど。先ほど委員長がおっしゃったハンドボールの言語の話ですね、ホームページなんか開いたときの言語の話も含めて、これからどれだけ多くの海外の人にも、この熊本のよさをアピールするかといったときに、宿泊なんかでも、ネットから直接申し込みができるようなシステムも必要なのかもしれないし、そのときの言語が日本語、英語、それからフランスとかトンガとかあるのであれば、どこまで対応するのか。

加えて言うと、熊本は2試合だけど、九州全部でいったら10試合あるんですよ。私も

橋口先生も松田先生もイングランド大会へ行かせていただきましたけど、とても次の試合までの日にちが5日間ぐらいは空くので、我々もいろいろなところに視察に行ったり、次の会場に移動したり、泊まるホテルは、松田議長は多分、議長だったので偉かったので、近くのホテルでしょうけど、我々は1時間ぐらい離れたところに、よその県の視察団と泊まったりというのもあったので、恐らく、この九州全体で力を入れていくことが、この経済波及効果、この2,330億円の予測の中のどれだけを九州に引っぱれるのか、その中のどれだけを熊本に引っぱっていきけるのかというのは、ここから勝負なんです。戦いは、やっぱりこっちにも移していきたいな、もちろん大会を成功させる、選手の皆さん方に喜んでいただく、関係者の方々に喜んでいただくのが一番ですが、次はやっぱり経済波及効果をどうにか取るかなので、ぜひ次回以降、これはまた委員長、副委員長とも検討していただいて、やっぱりその部分の説明をどなたかがやらなければならないと思いますけど、それを私、国際スポーツの今のスタッフに求めるのは酷なので、ここからは観光あるいは国際課、どちらの課長がやるか局長がやるかわかりませんが、そっち側は、やっぱりまさに商工観光労働部一体となって、別のセクションがしっかり説明をしていくというようなスタイルに変えるべきではないか。大会を成功させるための飾りつけとか装飾とか誘導をどうするかというのは国際スポーツがずっとやるんだけど、この経済波及効果をどう呼び込むかというのは、別のセクションがしっかり対応すべきだというふうに、これから、前向きにこれからのことを考えるとと思いますけど、その辺について部長どうですか。

○奥菌商工観光労働部長 今、委員がおっしゃったとおりでございます。そういう意識で今、取り組んでいるところでございます。

資料でいきますと、29ページに、海外展開推進本部という、いわゆるこれは熊本県全体が国際的にどう取り組むかという話なんですけども、その中に国際スポーツ部会、今回、これだけのための部会というのをつくらせていただきまして、15日に1回目の、まず、ざっくばらんにそういう意見交換をしましょうよというようなお話をしました。面子的には、我が部が中心になりますけど、当然、国際観光をやっております国際課ですね、それから国内の観光物産課、それから今回、ちょっとくまモンもありますので、ちょっとくまモンのところを集めてもらって、どういうところが問題なのかとか、何をやるのかということを議論をいたしまして、これからまとめていきますので、ちょっと今回までにお示しできませんでしたがけれども。

全体として、熊本の観光、外国人観光が65万ぐらいなんですよね。大体そのうちの9割方はアジアなんです。今回のターゲットは、多分、欧米になるだろうと、特に、ヨーロッパですね。

そういうことしていきますと、その6万人ぐらいのところに、今回どれくらい来るかという話なんですけれども、ざっくりと、いわゆる今度の2試合でターゲットできそうなのが大体1万人。先生がおっしゃったように、今回、10月6日と13日なんですけども、その4日前に、ちょうど同じフランスが福岡で、それからウェールズは、その4日前に、大分でやると、ちょうどその期間がまさにちょうどぴったりこんできているので、そこら辺に流れ込んであと2万人ぐらいとか、要するに3万人ぐらいの規模の方々をどう引っぱってくるか、それを、ではどうお伝えするかというようなところを、もうちょっと体系的にやらなければいけないというような話から始まりまして、そのときに池田先生がおっしゃったように、直接、あの人たちは、個人旅行で来ますから、ネットを見るよと、そうする

ときに自分の母国語がないと、これはわからぬだろうとか、そういうようなちょっとお話もさせていただいているところがございます。

済みません、そういうことで、そういったものをもう一度整理をいたしまして、何が問題なのかということと、実際に、また、福岡と大分ともここが連携を組んでいかなければいけないということで、その気は皆さんありますので、具体的に、どういうスケジュールでいくのかとか、連携を組んでいくのか、それとも行くときにこちらの資料を持って行っていただくのかと、それくらいの効率性も考えながらやらせていただきたいと思います。

そういったものを、また、次の委員会の中ではお示しできるかなと思いますけれども、そういう意識で今、やらせていただいておりますので、よろしく御指導いただければと思っております。

以上でございます。

○溝口幸治委員 1カ月半ありますからね。大会期間は、1カ月半あるし、新聞によると、200万人ぐらいが来られて、海外から41万人ですから、それをもとにしっかり熊本県に呼び込むような。もう2試合だったという現実をしっかり受けとめて、前に進んでいくような議論をぜひ我々もやりたいと思いますし、マスコミへの情報提供も含めて、ちょっと前向きに、この2019年に向かって前向きな議論ができるように、ぜひ情報提供も含めて心がけていただきたいと思います。

以上です。

○池田和貴委員長 今、溝口委員のほうから御指摘があつて、前委員長ですので非常に詳しい、今までの流れも踏まえての発言だったと思いますし、今、部長のほうもそれに応えてしっかりとやっていっているということ

御説明をしていただきました。しっかりと今後ともやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

その中でちょっともう1点お願ひしたいのは、今、部長もおっしゃいましたけど、今後、ターゲットが、ラグビーですと、どこの国が来るかが決まったので、相手のターゲットがここで確定したんですよね。そうした場合には、その国の人たちがどういうことを好きなのかとか、お土産にはどういうものを好んで買って行くのだとか、いわゆる相手の国のことを研究をして、そういったトレンドをきちんとつかんだ上で、そういった導線を図るとか、やはりきちんとこれからマーケティングをしながら、仮説を立てて、その仮説に基づいてやってみてどうだったのかのチェックをして、再度やっていくという作業をやれば繰り返していかなきゃいけないというふうに思うので、しっかりそこは、相手が決まったので、ターゲットを絞ってやっていただきたいというふうに思っておりますので、私からも要望しておきます。よろしくお願ひいたします。

ほかに質疑ございませんでしょうか。

なければ、次に、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑はないでしょうか。

よろしいですか。

ないようですので、次に共通する事項について、質疑はありませんか。

いいですか。

済みません、もう1点ちょっと。共通する事項で海外展開推進本部は、大体どれくらいの頻度で開催されているんですか、今まで。

○小金丸国際課長 海外展開本部につきましては、現在、国際課のほうで所管させていただいております。

大体、年に、幹事会と本部会議がございま

して、それぞれ2回を目標にしているところですが、昨年度は、ちょっと熊本地震の影響もあり、合わせまして2回というところでした。

今年度は、そういった部会も含めて、おおむね3回から4回ぐらいの開催。あと部会につきましては、今回委員の方々からのいろいろ御指摘もたくさんいただきましたので、そこは随時開催をいたしまして、次回2月の委員会のほうに臨ませていただきたいと思いますと思っております。

○池田和貴委員長 わかりました。何か回数ももっとたくさんあってもいいんじゃないかなと思ったりするんですけどね。何か少ないような気がしないでもないですけどね。まあ、しっかりやっていってください。

ほかにございませんか。

なければ、質疑はこれで終了したいと思います。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続し審査する旨、議長に申し出ることにしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

次に、その他に入ります。何かございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 はい。なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

なお、委員の皆様は、連絡事項がございませんので暫くお残りいただきたいと思います。

午前10時46分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により

ここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長